

令和5年度

ゼミナール活動報告

尾崎ゼミ

2年生（後期のみ）

- ・自己紹介、卒論テーマ決め
- ・テーマが近い人同士で4つのグループに分けてグループワークののちグループ発表
- ・先行研究の収集と読み込み
- ・集めた先行研究の紹介と今後の計画に関する個人発表

特にグループ発表は、必ずしもテーマがとても近いグループだけでは無かったが、共通点を見つけてプレゼンを作ることができた。

3年生

- ・（卒論テーマの）先行研究のまとめ、先行研究から論文の書き方を学ぶ
- ・の研究計画書、序文の下書きの決定
- ・それぞれのテーマについての話し合い
- ・個人面談

・後期終わりまでに序文完成、春休みではどこかの章を書き始めることを目的とした
実際にはテーマ絞りが不十分な者も残った。

4年生

- ・卒論を書き進め、3, 4人ずつ発表、ディスカッション
- ・途中経過報告（2, 3年生も合同で中間発表）
- ・卒業論文の提出と口頭発表

夏季休暇後までであらかたできていて、そこから推敲へ入ることを目指したが、初年度であったこともあり、進行はバラツキがあり、ぎりぎりの提出であったり推敲不足である者も出てしまった。

小野ゼミ

■テーマ： 『企業研究』

大企業、中小企業、ベンチャービジネス、外国企業、非営利組織の企業体を対象に、ケーススタディの手法を用いて研究を行っています。主な活動：①会社が公開する諸資料の収集方法、分析方法の学習、②発表・プレゼンテーションのトレーニング、③グループワーク（ゼミ生同士の共同作業）、④実社会に向けた学習活動（輪読と討議）、⑤外部講師を招聘した企業研究。

■演習Ⅰ（2年生）

後期： 後期授業『経営分析』をもとにした反転授業を実施した。2名1組になって各回の講義内容と課題演習についてプレゼンテーションを行った。

■演習Ⅱ（3年生）

6チームに分かれて共同で企業研究活動と発表を行った。

研究企業：本田技研工業（自動車）、アイシン（自動車部品）、すかいらーくホールディングス（外食）、博報堂DY（広告代理店）、エムアップホールディングス（コンテンツ配信）、任天堂（ゲーム）

■演習Ⅲ（4年生）

各人が卒業論文作成に向けた企業研究に従事し、中間発表・最終発表を行った。1月に全員が卒業論文を提出した。

研究企業：ソニーグループ、日本電気、フジ・メディアHD、メガベンチャー企業、任天堂、テレビ朝日HD、味の素、神戸物産、U-NEXT、ポニーキャニオン、SUBARU、日本ハム、ENEOS、百均業界、サントリーHD、テイクアンドグヴ・ニーズ、クボタ、モスフードサービス、芙蓉総合リース、スイーツギフト業界

■外部講演

12月5日講演会「20代のキャリア形成の変化」（清瀬和也氏）

最近の企業内キャリア形成と就職転職市場の変化について専門家の意見をうかがった。

金子ゼミ

●研究テーマ：【会計学】

財務諸表を用いた企業分析や公会計・財務会計の観点から、広く経済や企業の経営について学びます。

●活動内容

◆B to B 企業及び B to C 企業の分析（主に 2 年次～3 年前半）

4～5 人のグループに分かれて有価証券報告書などを用い、企業の特性や強みを分析または同業他社との比較をします。分析の指標を複数個行ったりフィードバックによる修正を行ったりして、1 回の分析で約 3 週にかけて発表を行います。

◆合同ゼミ（2 年次）

他のゼミと合同ゼミを行います。（2023 年度は中田ゼミと行いました。）

◆グループワーク（毎回）

基本は学年ごとに分かれてゼミを行います。授業の一部は他学年と一緒にグループワークを行います。会計学のテーマについての討論や就活について話します。

◆雑誌、新聞記事分析（不定期）

個人で興味のある雑誌や新聞の記事を選定し、3～4 分程度で発表します。すべて個人で作業を行います。

◆のびのび経済の論文執筆（3 年次）

公会計か財務会計のグループに分かれて 4 人前後で論文を執筆します。

◆アカウンティング コンペティションへの参加（3 年次）

各班で作成した資料を用意し、他大学と合同で行う会計についての発表大会です。2 年生も見学という形で参加します。

◆卒業論文の執筆（4 年次）

個人で卒業論文を執筆し、執筆した卒業論文は、懸賞論文に提出します。4 年次は、後輩への指導も多く行います。

櫻井ゼミ

主なゼミ活動は以下の通りです。

演習Ⅰ（２年生）

（１）文献の輪読

以下の文献の内容報告を分担して行い、グループワーク形式での意見交換を行うことを通して、著者の主張の意義や限界を協力してまとめた。

藻谷浩介・NHK 広島取材班『里山資本主義：日本経済は「安心の原理」で動く』
角川新書、2013年

（２）地方財政分析

それぞれのゼミ生が、自分にとって身近な市区町村の財政の現状と課題をまとめた。

演習ⅡA・ⅡB（３年生）

（１）グループ論文（５点）の執筆

（２）学習成果の発表：

以下の学外の学術大会や大学合同発表会においてグループ論文の発表を行った。

- ・第63回インナー大会（主催：日本学生経済ゼミナール関東部会、オンライン実施）
- ・大学合同発表会（青山学院大学・香川大学・立命館大学の社会保障論や財政学を専攻するゼミとの合同実施、於：青山学院大学）。

（３）就職活動に向けた共同学習

- ・エントリーシートの作成と意見交換
- ・模擬面接

演習Ⅲ・Ⅳ（４年生）

（１）卒業論文（17点）の執筆

（２）学習成果の発表

以下の大学合同発表会において卒業論文の発表を行った。

- ・大学合同発表会（青山学院大学・香川大学・立命館大学の社会保障論や財政学を専攻するゼミとの合同実施、於：青山学院大学）。

田原ゼミ

【田原ゼミと全体の活動】

私たち田原ゼミは、人口減少社会における社会保障やまちづくりについて学んでいます。

普段のゼミ活動は3学年合同で授業を行っており、主に4年生は卒論の報告、2・3年生は教科書報告や、卒論制作に向けた文献報告を行っています。

また学内の活動に加えて、学外での活動も積極的に行っています。今年度は地域連携活動として渋谷川遊歩道沿いで「さくらホッとこたつ」にて地域の方々と交流を深め、「大丸有巡検」では大手町・丸の内・有楽町の時代の移り変わりによるまちづくりの変遷を確認しました。

【活動内容】

〈2年生〉

・「教科書報告」

「東大塾 これからの日本の人口社会」を用いて、東京一極集中や高齢化、人口減少などのいま日本が直面している課題を多角的な視点から学び「人口減少社会」「人口移動」「地方創生」「希望学」を各々の言葉でまとめ、今後の日本社会に対する理解を深めました。

使用した教科書：白波瀬佐和子編（2019）『東大塾 これからの日本の人口と社会』東京大学出版会

・「新聞記事報告」

各々がゼミのテーマ（地域経済あるいは社会保障）に関連した新聞記事を読み込み、レジュメにまとめ発表することで、そのテーマに関する見識を深めました。

〈3年生〉

・「大丸有巡検」

2年生に対しフィールドワークを用いて大手町・丸の内・有楽町の成り立ちや再開発の歴史を紹介し、日本を代表する企業が多く立地するまちについて学習を行いました。

・「卒論に向けた文献報告」

それぞれが研究するテーマの選定を行い、選定したテーマについて関連する論文や新聞記事を用いてさらに理解を深めました。

〈4年生〉

・「卒業論文執筆」

社会保障や地域活性化といったテーマに基づいて、各々の関心があるテーマについて資料を収集し分析を行いました。

今年は「都心再開発と居場所がなくなるホームレス～渋谷区を事例に～」「阿佐海岸鉄道はなぜ存続できたのか？地方ローカル線存続に関する一考察」「Jリーグクラブを維持させるためのホームタウン活動の周知」「地域通貨の実態と課題の分析・渋谷区デジタル地域通貨「ハチペイ」を事例に-」等の論文が作成されました。

中馬ゼミ

本ゼミのテーマ

グローバル経済の中で深刻化する経済・社会格差問題

グローバル経済の展開と密接に関わりつつ深刻化する経済格差や社会的差別の要因・現状分析、ならびにそれらを踏まえた「オルタナティブな経済を模索する動き」に関する研究を主題とし活動してきた。

【2年生】

1年次基礎演習 A で学んだアカデミックスキルをおさらいした上で、ギグワークに関する論文について、書評論文を執筆した。

【3年生】

<前期>

4チームに分かれ、ギグワークに関する著書の分析、プレゼン発表を行った。

講読文献 水嶋一憲他編著(2023)『プラットフォーム資本主義を解読する スマートフォンから見えてくる現代社会』ナカニシヤ出版。

また、そこでのプレゼン発表を基に、6000字程度の書評論文を執筆した。

<後期>

ゼミ成果発表会に向けたグループ・テーマに関する研究を行い、ゼミ成果発表会へ参加した。その内容を踏まえ、ゼミ生個人で12000字程度の自由テーマ論文を執筆した。

また、あいおい同和損保の先輩を招いての企業説明会も実施した。

辻ゼミ

辻ゼミでは、学生の主体的な学習コミュニティの形成を目指して個人研究や文献発表のほか、産学連携プロジェクトなどに意欲的に取り組んだ。

【ゼミのテーマ】

人的資源開発・組織開発

【授業内容】



■ 2年生ゼミ(2期生：男子7名・女子10名、計17名)

①課題図書：本年度の課題図書は『非認知能力：概念・測定と教育の可能性』(小塩真司, 2021.北大路書房)、『いちばんやさしい「組織開発」の始め方』(中村和彦ら, 2023.ダイヤモンド社)の計2冊。担当章を定め、それぞれでグループワークを盛り込んだワークショップ形式にまとめて発表した。聞き手が主体的に内容を深く理解できるような工夫を試行錯誤した。

②個人研究発表：卒業論文作成の最初のプロセスとして、「興味のあること・好きなこと」に焦点を当て、個々人で研究としてまとめた。発表形態は様々で、ポスター、パワーポイント、資料を配布するなど、研究内容に応じて個性的な発表を行った。(執筆担当：上ノ園美濤)

■ 3年生ゼミ(1期生：男子8名・女子7名、計15名)

①課題図書：前期は『社会科学の考え方』(野村康, 2017.名古屋大学出版会)、『Foundation of Human Resource Development』(Swanson・Holton, 2008. Berrett-Koehler Publishers)、後期は『組織開発の探究』(中原淳・中村和彦, 2018.ダイヤモンド社)、『人材開発・組織開発コンサルティング』(中原淳, 2023.ダイヤモンド社)などに取り組んだ。ワークショップ形式で解説を行い、内容の理解を深めた。文献によっては発表の中に寸劇やミニゲームなどの工夫を凝らし、「場づくり」を意識した主体的に学ぶ環境をデザインした。

②卒業論文研究：テーマが近いゼミ生同士で相談をしながら、研究計画を立て、先行研究の読み込みをし、部分的に執筆活動にも取り組んだ。(執筆担当：落合瑛士)

■ 4年生ゼミ(0期生：男子3名・女子0名、計3名)

編入生で構成されたゼミでは、卒業論文の完成に向け、個人研究についての議論と相互フィードバックを繰り返した。1月の締め切りまでに全員が提出した。

■ その他の活動

その他の活動として、2、3年生は比企起業大学の起業家やPOLA株式会社との産学連携プロジェクト、立教大学・関西大学との合同ゼミの企画・運営、サーベイフィードバックによるゼミの組織開発の実践などを行った。また、3年生は読書会を開催し、『最新版 論文の教室』(戸田山和久, 2022. NHK 出版)を1日かけて1冊を発表し合った。

手塚ゼミ

演習Ⅰ（2年生：男子10名、女子6名、計16名）

輪読を通して経営戦略に関する知識をインプットし、事例分析を演習(プレゼン)という形でアウトプットすることで、理論の理解と実践を行った。輪読では網倉・新宅『経営戦略入門』（日本経済新聞出版）の「経営戦略の基礎概念」と「競争戦略」の範囲を読解した。担当者2名が1章ずつ要約したレジюмеを事前に作成して発表し、4人班に分かれて3年生から与えられた論点の討議と全体共有を行い、最後に先生から解説をしていただいた。演習(プレゼン)では輪読で学習したフレームワークを用いて、①差別化戦略とコストリーダーシップ戦略の企業比較、②ライザップの戦略キャンパスの作成、③別途配布されたミツカンとカーブスの事例資料に基づいた企業分析と戦略考案を4人班でパワーポにまとめて発表した。

演習ⅡA・ⅡB（3年生：男子6名、女子9名、計15名）

前期の前半は、株式会社ルノアールと大戸屋ホールディングスの環境分析と新規事業提案を1チーム3、4人で2チームずつに分かれて実施した。外部・内部環境をフレームワークで分析し、課題を明らかにしたうえで、新サービスを考え、授業時に発表しあった。後半は、新しいチーム編成でキャンパスベンチャーグランプリの東京大会に参加し、自分達で新事業を考え、1からビジネスプランを作成した。

後期の前半は、青山商事株式会社と株式会社文教堂グループホールディングスの現状分析と新規事業の提案を2チームずつに分かれて実施した。環境分析や顧客ニーズ分析を行い、問題を明確にし、解決するために取り組むべき新規事業を提案した。後半は、メンバーを入れ替えて武蔵大学ビジネスプランコンテストに参加した。そこでは、日々の困りごとからテーマを見つけ、今まで培ってきた知識を活用し、新規事業を作成した。

演習ⅢA・ⅢB（4年生：男子7名、女子1名、計8名）

4年次の活動では、年間を通して個々人の卒業論文の作成に取り組んだ。前期では卒業論文の研究目的や研究課題をブラッシュアップした。

まず事前の春休みには、課題として「対象にしたい業界・企業・経営テーマの設定」「そのテーマで気になること」などを800~1200字でまとめた。

前期には、春休みに作成した課題を基に各週の発表者がパワーポイントにまとめて先生と共に卒業論文の方向性を定めた。

夏休みには、ブラッシュアップした方向性を5,000字の文章にする課題を行い、それぞれの研究に必要な検証などを実施した。

後期は、夏休みの課題を基に結論に向けた検証報告以下の文章化を行い、本格的な卒業論文の作成に取り組んだ。

中泉ゼミ

私たちのゼミでは、「授業としてのゼミ」以外の取り組みはしていないので、この1年間を振り返って、主に4年生の目線で「授業としてのゼミ」について報告します。

私たちの学習・研究の主要なテーマは、「ビジネス・エコノミクス」とか「経営経済学 Managerial Economics」といわれている分野です。

2年生では、株式会社を念頭に価格戦略のありかた、完全競争、ゲームの理論など、経営戦略にかかわる経済学の初歩を学びました。その後、「企業研究」と題して、各自が関心をもった企業について最近の動向を報告しあい、その中から担当教員がピックアップした企業の戦略について、学習済みの経済学の知識でどのように説明できるかを議論しました(例: オリエンタルランドの変動価格制)。

3年生の前期では、2年生で学んだことを復習したあとに、市場構造と各企業の競争(事業)戦略の関係、参入障壁と参入阻止行動、コミットメント戦略の意義などを学び、一応、「経済学から見た経営戦略の学習」を(かなり不完全ですが)終了させました。

なお、以上の学習・研究では、3~4人チームのグループ学習が重視されました。

9月には、4年生、3年生合同の集中セミナーを実施しました。集中セミナーは、当ゼミ唯一の3年生と4年生の学問的な交流の場です。4年生は卒業研究の中間報告、3年生は夏休み中に(これまでとは真逆?で)「経営学の先生が書いた経営戦略論」のテキストを題材に、主に競争(事業)戦略の学習・研究を開始し、セミナーでは、その内容の報告をしました。4年生の報告についてはコメンテーターを割り振って相互に議論しあうだけでなく、3年生も質疑に加わりました。3年生の報告では、すでにその知識のある(はずの)4年生が、「つつこみ」(3年生の理解度を測ったり、考えこませたりの)をしました。

3年生の後期には、夏休みおよび集中セミナーから開始した「経営学者による(言い方をかえれば、本流の)経営戦略論」の学習・研究を継続し、主に「多角化」にかかわる経営戦略(全社戦略)を、報告と質疑(全員が発言)を通じて学びました。2年生から3年生前期までに学んだ「戦略の経済学」と相互に照らし合わせながら、批判的に理解を深めるという姿勢で臨みました。後半にはプラットフォーム型のビジネスについて学習・研究しました。冬休みには、卒業研究に向けた準備を開始し、最終回には、研究テーマ、関連して集めた資料等について全員が発表しました。

4年生は、「11月から12月にかけて」が一番つらかったです。前期、夏休みと集中セミナー、そして、後期と(主に前期は就活となんとか両立させつつ)、「最初は1年あるからだいじょうぶ」と思っていたのですが、その1年がアツという間に過ぎてしまった感じです。担当教員から厳しく言われていた卒論単位修得要件のひとつで、最後の最後まで意外と苦勞したのは、参考文献(WEBを含む)のあげ方と引用のしかたでした。でも、1月16日には、担当教員から全員に「卒ゼミおめでとう」のメールがきました!

(以上、中泉ゼミ生一同および担当教員中泉真樹)

中田ゼミ

中田ゼミは、前期は2学年合同、後期は3年合同でゼミを行っています。2023年度の各学年の活動実績は以下のとおりです。

(1) 演習Ⅰ（2年生・後期）

◆マイナビ主催「課題解決プロジェクト」への参加

◆企業分析

◆金子ゼミとの合同ゼミ（内容：企業分析の発表）

◆根岸ゼミ・宮下ゼミとの合同ゼミ（内容：マイナビ主催ビジコンの発表）

◆教科書発表：①「世界一楽しい決算書の読み方（実践編）」（大手町のランダムウォーカー一著、KADOKAWA 出版）、②『この1冊ですべてわかる 経営戦略の基本』（日本総合研究所 経営戦略研究会者、日本実業出版社）

- 外部コンテストの参加、他ゼミとの合同プレゼンなど良い経験を積むことができました。
- 教科書を読み込み、発表を行うことで、既知の知識の復習と、今後のゼミ活動における知識を修得することができました。

(2) 演習ⅡA・ⅡB（3年生）

◆企業価値評価

◆「神奈川産学チャレンジプログラム」への参加

◆4大学インターゼミへの参加（高崎経済大学、武蔵大学、明治学院大学）

◆経済学部ゼミ成果発表会への参加

◆『の〜びのび経済』グループ論文の執筆

- 残余利益モデルを用いた企業価値評価のやり方を学び、企業分析を行いました。
- 産学チャレンジプログラムでは5チームで参加しました。
- インターゼミ・ゼミ成果発表会では、企業価値評価を含んだ企業分析の発表などを行いました。また、その内容をグループ論文として『の〜びのび経済』に投稿しました。

(3) 演習ⅢA・ⅢB（4年生）

◆卒業論文執筆

- 前期は就職活動を行いながら、テーマの選定をし、卒業論文の執筆を行いました。随時グループ内で報告し合いながら、ゼミ内でも適宜全体報告をしました。最終的には、4年生全員が卒論を書き上げることができました。

(4) ゼミ合宿（2022年度スプセ、2023年度サマセ）

◆ビジネスゲーム

- スプセとサマセは、大学での対面実施と、2泊3日の合宿とで行いました。

根岸ゼミ

根岸ゼミでは、現代経済社会の問題について、政府部門を主とする公共政策を切り口に、学習、研究を行いました。4年生18名は、1年をかけて卒業論文を書き、全員が卒業論文を提出しました。3年生18名は、2つの外部コンテストに延べ8チームが参加し、3チームが賞を取ることができました。また論理的な思考を学び獲得するために1冊の本（『構造読解力』）を全体で読みました。2年生16名は、1つの外部コンテストに参加するとともに、4年生が終わるまでの学習計画を立てました。

以下、それぞれを具体的に報告します。

1. 外部コンテストへの参加

3年生は、2つのコンテストに参加しました。1つ目は、ゼミ生一人一人が学びたい内容でコンテストを選びました。2チームは「渋谷区長への政策提言コンペ」に参加し、渋谷区がサステナブルな国際都市として発展し続けるための提案を行い、1チームがサッポロホールディングス賞を受賞しました。1チームは「タップアワード」に参加し、観光・宿泊業界が抱えている課題への解決策を提案しました。1チームは「公共政策フォーラム 2023in 信州上田」に参加し、人口減少時代の持続可能なまちづくりを提案しました。2つ目は、「神奈川産学チャレンジプログラム」に4チームで参加し、1チームが最優秀賞、1チームが優秀賞を受賞しました。

2年生は、マイナビ課題解決プロジェクトに参加し、2チームがJALからの課題、2チームがFANCLからの課題に取り組みました。

どのチームもプレゼンテーションを作成し、グループ論文を書くことで、大きな成長を実感できました。

2. 『構造読解力』での学習

3年生は、『構造読解力』を読み、各章を担当するチームが自分たちで工夫し授業し合う学習をしました。授業資料を作り、人に伝えることの大変さや、長い時間、聞き手を引き付け続けることの難しさを知りました。これをさらに発展させるため、春合宿では、3年生が2年生に授業を行います。

3. 卒業論文作成

根岸ゼミでは、3年後期の後半に卒業論文の第1章を発表することから、卒業論文が始まります。発表者はゼミの2日前に発表する章の文章（ワード）を共有し、全員がその文章を読み、ゼミでは質疑応答を中心に行う、相互学習を実践しています。各自が書く卒業論文の質が深まると、質疑応答の質も深まります。こうしたことにより、4年生は12月中旬には全員が卒業論文を書き上げました。

芳賀ゼミ

●研究テーマ：マーケティング(特に、消費者行動論)

●基本活動：金曜 4 限・5 限・6 限

●ゼミの進め方

ゼミでは「マーケティング」のうち、消費者がなぜ買うのか、いつ買うのか、何をかうのか、どのように買うのかについて「消費者行動論」といった心理学と関連の深い分野を中心に研究を深めている。

本ゼミの取り組みとしては、消費者視点からマーケティング問題（新製品開発、広告コミュニケーション、ブランド戦略 etc...）について、グループないし個人で研究を進めている。具体的には、ネットあるいは新聞・雑誌の記事を使った情報収集や市場分析から始まり、調査(店頭調査、発売中の商品の調査、実食調査など)に加えて、マーケティングリサーチを踏まえたプレゼンテーションを重ねている。

●活動内容：

<2 年ゼミ・3 期生>

後期から始まった芳賀ゼミでの活動は、HAD というフリーソフトを用いた、データの分析手法についての学習がメインだった。具体的には分散分析、クラスター分析などが挙げられる。

3 週間に 1 つのテーマに取り組む形でのグループワークを行い、実践的に分析手法を学んだ。これにより体系的な学びを得ることができ、今後の産学連携にも活かすことができるであろうと思う。

<3 年ゼミ・2 期生>

前期は主に HAD というフリーの統計分析用プログラムのソフトを用いて分散分析や回帰分析など様々な分析方法を学んだ。毎回習った分析方法ごとにグループワークを行い、仮説を立てて実際に検証を行いこれの発表を 3 週間ごとに行った。

後期では産学連携で株式会社楽農研究所様と共同で企業が出すブランド商品の 1 つにある神の島レモンカードの認知度向上に向けた提案をした。提案にあたっては設定した顧客層にアンケートやインタビュー調査を行い、結果を分析することで提案内容を具体的にした。授業では各グループが現状報告をした内容について、先生からフィードバックを毎回いただくことができる。いただいたフィードバックを基に提案内容をブラッシュアップすることによって、楽農研究所様に向けた中間報告会や最終報告会を無事終えることができた。

<4 年ゼミ・1 期生>

前期および後期にかけて卒業論文に向けての執筆の各プロセスを経て、卒業論文に取り組んだ。

藤山ゼミ

藤山ゼミでは、基本的な本の読み方を身につけつつ専門的知識を獲得するための輪読と、授業や輪読を通じて学んだフレームワークや理論を応用するためのグループ研究プロジェクトを実施した。

■テーマ

経営学, 組織論, 戦略論, イノベーション

■ゼミの内容

ゼミでは、4年生が卒論の研究発表を行い、2・3年は合同で輪読と研究発表を行った。

●2年生

9月前半に夏合宿を行い、「ディプロマシー」というボードゲームを使って競争戦略の考え方を学んだ。学期開始後は、ゼミ前半の5限『社会心理学再入門—ブレークスルーを生んだ12の研究』（スミス他、2017、新曜社）を毎週1章ずつ輪読した。ゼミ生全員が書籍を読み、該当章の発展や展開を考えてくることで、理論の学修と現実の見方の習熟を進めた。

ゼミ後半の6限は、3週に1回程度のペースでパワーポイントを使って研究の報告を行い、ほぼ毎週ワードによる進捗報告を教員に提出した。2年生が取り組んでいるテーマは、①ブランドコミュニティプロジェクト（サンロッカーズ渋谷のファンコミュニティ研究）、②戦略分析プロジェクト（自動車のEVシフトによる業界構造の変化とトヨタの戦略的対応）、③ブランドストレッチプロジェクト（チャンネルによるインフルエンサーとのコラボがもたらす影響の正負）である。

●3年生

夏合宿・輪読は2年生と合同で行い、内容自体も同様である。研究プロジェクトとしては、10月半ばまでは外部のビジネスコンテストに提出するためのビジネス案を練り上げるための研究を進めた。ビジネスコンテストへの提出が終わった後は、12月のゼミ成果発表会に向けて4グループがそれぞれのテーマに取り組んだ。ゼミ成果発表会が終わった後は、卒業論文の頭出しを行った。

●4年生

1年間かけて卒業論文を執筆した。週に4人程度が報告担当となり、ワードにまとめた進捗をゼミで発表した。それに対してゼミ生全員がコメントをすることがルールとされ、様々なコメントを受けながら論文を改善することに取り組んだ。

細井ゼミ

本ゼミは、2年生4人、3年生3人、4年生3人が所属しています。国際経済、国際経営を研究しています。2年次には国際経済に関する英文テキスト *International Business* の理解、3年次以降にはビジネスケースについての討論や、卒論を見据えてそれぞれの興味のある分野についての研究を進めていきます。毎回のゼミで、発表者に対してフィードバックを行い理解を深めます。

3月には春合宿を行い、主にビジネスケースを行いました。9月には海外研修ではベトナムに行き、企業に学生が連絡を取り5社を訪問してゼミで学んでいることを実際に自分たちの目で見る事が出来ました。



(9月工場見学時の写真)

山本ゼミ

【2年生】

経済地理とはどのようなものなのかを理解するために、担当になったゼミ生は指定された学術雑誌の中から論文を選び、要点をまとめて授業日に発表を行います。他のゼミ生は報告された論文を読むことで、さまざまな議論に関する知識を深めます。分からない箇所や専門用語は教員が解説を行い、内容の理解を深めていきます。

活動の成果としては、さまざまな論文に触れることによって、自分の興味のある分野を探ることができ、3年生から書きはじめる卒業論文の作成に向けた準備を行うことができました。

【3年生】

2年生の時に行った活動から、卒業論文のテーマを決め、本格的に卒業論文を書きはじめます。授業日には進行状況を全体で共有し、教員からのコメントを貰いながら、各自進めていきました。

活動の成果として、3年生のゼミ生全員が卒業論文のテーマを決めることができました。

《卒業論文タイトル（仮）例》

- ・並行在来線地域の交通と観光
- ・鎌倉市のオーバーツーリズム現象とその課題に関する研究
- ・サイクルツーリズムの推進と観光公害に関する考察 -京都市を事例として-

【4年生】

調査対象地域に赴き、アンケート調査やインタビュー調査をして、情報収集を行い、卒業論文の仕上げに向けて活動しました。

活動の成果として、4年生全員が卒業論文を作成することができました。

《卒業論文タイトル例》

- ・遺跡による地域振興-登呂遺跡を事例として-
- ・御朱印ブームによる地域振興の可能性
- ・人口増加都市における非営利団体の活動 千葉県流山市を事例に